

# 聖天山境内 九棟

## 国登録有形文化財(建造物)登録(下)



- ① 平和の塔
- ② 鐘楼
- ③ 籠堂
- ④ 仁王門
- ⑤ 閻伽井堂
- ⑥ 水屋
- ⑦ 三宝荒神社
- ⑧ 五社大明神
- ⑨ 天満社



### ◆ 平和の塔

もくぞうたほうとう どうばんぶき けんちくめんせき  
木造多宝塔、銅板葺、建築面積17㎡  
(昭和33年建立)

「平和の塔」は、境内北方の盛土上に建つ総櫓造の多宝塔で、昭和26年に締結されたサンフランシスコ平和条約を記念し、戦没者の供養と世界恒久平和を祈願して建立されたものです。内部には、十一面観世音菩薩や大日如来、弘法大師などの仏像が安置されています。大工棟梁は林亥助です。



### ◆ 天満社

もくぞうひらやだて どうばんぶき けんちくめんせき  
木造平屋建、銅板葺、建築面積3.8㎡  
(天明5年(1785)建立/平成23年改修)

「天満社」は、聖天堂の背面、五社大明神の南側に位置する一間社流造、素木造、銅板葺の小社です。軒廻りの彫刻など、三宝荒神社とほぼ同じ形で、境内の形成過程を知ることができます。均整の取れた垂木も特徴。大工棟梁は林兵庫正信です。



### ◆ 仁王門

もくぞうひらやだて どうばんぶき けんちくめんせき  
木造平屋建、銅板葺、建築面積75㎡  
(明治27年建立)

「仁王門」は、参道の奥、聖天堂の正面に建つ大規模な門で、左右に仁王像を安置しています。屋根は入母屋造瓦棒銅板葺で、中央の虹梁には花鳥の精緻な彫刻を飾っています。大工棟梁は林正啓と伝えられています。万治2年(1659)建立された仁王門は、明治24年に隣接するイチョウが暴風雨により倒木し、建物が倒壊。再建されました。



### ◆ 閻伽井堂

もくぞうひらやだて どうばんぶき けんちくめんせき  
木造平屋建、銅板葺、建築面積15㎡  
(江戸後期建立)

「閻伽井堂」は仁王門の南に位置する木造平屋建、入母屋造銅板葺の建物で、中央に井戸を据えた土間と水天宮を祀る一室からなっています(閻伽井とは弘法大師が修行で用いた清浄水の水井を意味)。軒廻りに精緻な彫刻を施してあります。大工棟梁は、貴惣門を建てた林正道、彫刻は3代自石原常八の息子、高沢介之助と伝えられています。

### 妻沼 聖天山について

◆ 由緒と歴史…妻沼聖天山は、高野山真言宗の準別格本山で、奈良の生駒山宝山寺、浅草の待乳山本龍院と並び日本の三大聖天の一つと言われています。

◆ 建築物…本殿の歓喜院聖天堂は江戸時代中期の建物で、開かれたのは平安時代末期の治承三年(一一七九)で、武蔵国幡羅郡長井庄の庄司・斎藤別当実盛が、領民の安泰と平和を願い、領民の心の拠り所として聖天堂を建立しました。

で、日光の流れを組む職人達の技術力の高さと庶民の浄財により修復が果たされ、国宝に指定されています。山門の貴惣門は彫刻のすばらしさ、技術面の高さなどから国の重要文化財に指定されています。

資料…江南文化財センター  
執筆・監修…山下 祐樹

どを造った職人達が関わった九件の建物(籠堂、鐘楼、閻伽井堂、三宝荒神社、五社大明神、天満社、仁王門、水屋、平和の塔)が国の登録有形文化財に認定されました。